

皮膚科



皮膚科の紹介

皮膚科領域の一般的疾患から稀少難治疾患までかたよりにく幅広い診療を行っており、専門医取得のために要求される疾患の全般的な研修を無理なく行うことが可能です。また、形成外科が同じ講座内にあり、皮膚腫瘍、熱傷、皮膚潰瘍などは連携して診療しています。教室の研究テーマは、アトピー性皮膚炎、乾癬と自然免疫、創傷治癒、薬疹を含めた皮膚アレルギー、メラノーマなどです。

プログラムの目的と特徴

炎症・感染・腫瘍など皮膚に生じるすべての疾患を当院や連携病院で学び、最短5年で皮膚科専門医資格を取得することを目指していただきます。



経験目標

皮膚科専門医取得のために必要とされる、臨床症例経験、皮膚病理診断、講習会出席、学会発表、論文作成（筆頭著者で3本）などを最低限の目標としますが、特に興味のあることに関しては、追加で経験目標として研修を行っていただくこともできます。

指導医や指導体制

指導医の元で外来診療補助を通じて皮膚科外来診療業務の手順を学びながら、病棟診療においては病棟医グループの一員として、病棟患者の直接診療に参加して研鑽を積んでいただきます。

教授：藤澤康弘

特任教授：村上正基

講師：白石 研（医局長）、武藤 潤（病棟医長）

助教：八束和樹（外来医長）、西原克彦、吉田 論

研修に関する行事

外来診療：月～金曜日午前

手術：火曜日、木曜日

月曜日 16 時、病棟医長回診

火曜日 17 時、病理検討会

水曜日 15 時、教授回診、臨床・病理カンファレンス

木曜日 17 時、悪性腫瘍カンファレンス（月1回）、
病理レクチャー

（月曜日 17 時 ラボミーティング：大学院生または研究に興味のある専攻医）



新専門研修プログラムについて



- 研修連携病院には、県立中央病院、松山赤十字病院、松山市民病院、済生会松山病院、県立今治病院、済生会今治病院、市立宇和島病院、神戸大学医学部附属病院があります。
- 準連携施設である当院の形成外科で1年間の皮膚外科研修を行うことも可能です。
なお、この1年間も上記の研修期間に含まれます。
- 5年目終了時の専門医取得を目指しつつ、専門医資格取得後のキャリアパスを相談させていただきます。

専門研修終了後について

大学にスタッフとして残り、専門外来を含めた外来診療、専門研修医指導、臨床・基礎研究などを行うことが可能です。連携病院の部長・医員として勤務することももちろん可能です。現在、当科出身の医師が、県立中央病院、済生会松山病院、松山市民病院、県立今治病院、済生会今治病院、市立宇和島病院などで常勤医として勤務しています。その後学位取得を目指して大学院への進学や、国内外に研究あるいは臨床留学することも可能です（実績あり）。

専門研修の問い合わせ先

白石 研（講師・医局長）、八束和樹（副医局長）

089-960-5350

e-derma@m.ehime-u.ac.jp

<https://www.m.ehime-u.ac.jp/school/dermatology/>

